



UDパッケージのリ・デザインの作品（上）、ワークショップ風景（左下）、デザイン要素のまとめ（右下）

教員特別研究（重点目標研究）成果報告書 | 配分研究費：635千円（平成29年度）

SUAC発のUD価値創造に向けた萌芽研究

目的・概要

UD視点から新しい価値創造につながるSUAC発の研究テーマを発掘し、グローバルに展開する。

《研究①》UDパッケージの研究

ワークショップやヒアリング調査を通して、パッケージにおけるUD要素を明確にする。（客員研究員の受け入れに伴い、当初のテーマを変更）

《研究②》若年者、高齢者の色領域の研究

2016年度から実施してきたデータを、特に照明の色温度に着目して分析する。

期間

平成29年5月1日～平成30年3月31日

研究担当者

デザイン学部	デザイン学科	准教授	小浜 朋子
STOU大学（タイ）			Jeeranuch Buddeejeen
STOU大学（タイ）			Boonchai Waleetorncheepsawat
STOU大学（タイ）			Spawadee Theerathamakorn

スケジュール

平成29年6月～10月	STOU大学（タイ）の共同研究者Jeeranuch Buddeejeenを3か月間受け入れ「UD視点のパッケージ」をテーマに研究を深める。
平成29年10月	国際色彩学会（AIC）で、2014年に実施した湖西大学（韓国）の金井教授との共同研究「女子学生における壁紙の嗜好性の日韓比較」を発表する。
平成29年10月～ 平成30年2月	UD素材として”コルク”に焦点をあて、授業の課題に取入れるなど具体的にデザイン/研究の展開を検討する。
平成30年2月	STOU大学にて研究結果をまとめ、国際会議への投稿を行う。

研究成果

研究を国際学会で発信した。

《研究①》UDパッケージの研究

→2018年6月IAPRI（国際パッケージ会議）で発表

タイの土産物を対象にSUACの学生ワークショップを実施し、その評価結果や改善提案デザインなどから「言語や文化が異なっても、その商品の中身や特徴が理解できてかつその価値が伝わるパッケージデザインの要素」を明らかにした。

《研究②》若年者、高齢者の色領域の研究

→2018年12月ACA（アジア色彩学会）で発表

色領域の研究は国際的にも多数あるが、LEDの電球色と昼光色の比較は少なく、新たな研究成果として認められた。また、「特定の色カテゴリーに選択されない色」に着目した分析からは大きな発見があり、「迷わない方向性の定め方」という新たなUD研究のテーマを得た。

《その他》「女子学生における壁紙の嗜好性の日韓比較」

→2017年10月AIC（国際色彩学会）で発表

協定校（韓国／湖西大学）の金井教授と一緒にいった「女子学生における壁紙の嗜好性の日韓比較」を、卒業研究レベルながら国際学会で発表できたことは、今後の教育・研究の布石となった。また、UD素材としてコルクに着目しデザイン展開を検討したが、具体的な提案には至らなかった。



色領域の研究で用いた色チップ 及び 実験風景

今後の研究成果の 還元方法

今年度の活動を通じて、「UDパッケージ」「照明の色温度に着目した色領域」「デザイン素材」のテーマはいずれもユニークな視点を含んでおり、SUAC発のUD研究として価値創造につながると確信した。今後はSTOU大学だけでなく、他国の研究機関とも共同研究を展開し、国際文化とデザインに関する研究の基盤を作っていききたい。また、研究成果は国際学会や論文などで発表していく一方、学生や一般の人にもわかりやすい形で伝えたい。実際に研究サンプルに触れ、モニターとして参加もらうなどして「研究」を体感する授業やワークショップなどの機会を増やしていきたいと考える。